

英語得点力
アップデートガイド

$$\text{英語力} = (\text{単語} + \text{文法}) \times (\text{認知スキル})^2$$

英語力は「才能」じゃない。
認知科学で解く『英語力の公式』

努力が点数に結びつかないキミへ贈る、ロジカル・ゲームプラン



「毎日単語帳を開いているのに...なんで？」

The Hard Worker

「テストになると
全然解けない」
「誰よりも時間をかけて
いるはずなのに…」



The “Natural”

「あいつは部活ばかり
で勉強してないのに、
なんで長文が読めるん
だ？」



「自分には語学のセンスや才能がないのかも」
…その思い込み、今日で終わりにしませんか？

「点数が取れないのは、
頭が悪いからでも、
気合が足りないから
でもないんだ！」



英語はフワフワした「センス」ではなく、数学と同じ「公式」である



認知科学
ルール

人間の脳が言葉を処理する仕組み（認知科学）をひもとけば、
英語力は目に見える「数式」として表すことができます。

- ✓ 努力が足りないわけではない
- ✓ 「点数がどうやって作られているか」というルールを知らないだけ

「これから、
その『秘密の数式』
を公開するよ！」



これがテストを攻略する『英語力の公式』だ

$$\text{英語力} = \left(\begin{array}{c} \text{① 単語の瞬発力} \\ \times \\ \text{② 語順のルール} \\ \times \\ \text{③ 構造解析力} \\ \times \\ \text{④ 処理の自動化} \end{array} \right) + \begin{array}{c} \text{⑤ 背景知識の推測} \end{array}$$

「最後のスコア底上げ(おまけの推測力)」

「基本の読解力(絶対に欠かしてはいけないコアスキル)」

なぜ点数が伸びない？ それは「掛け算」の罠にハマっているから。

$$100 \times 100 \times 0 \times 100 = 0$$

カッコの中はすべて「掛け算」。つまり、4つの要素のうちどれか1つでも「0（または極端に低い数字）」があれば、他のスキルがどれだけ高くても、読解力は「ゼロ」になってしまう。

「キミの点数が伸びないのは、この4つのどこかに『隠れゼロ』が潜んでいるからだ！」

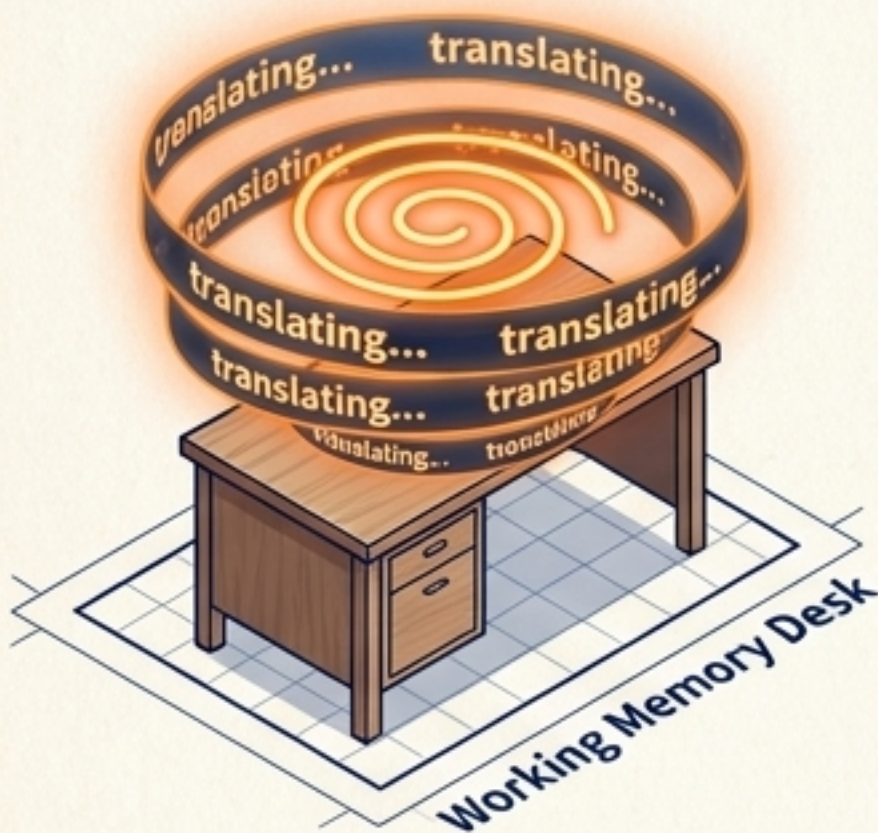


1

要素① 単語の瞬発力（3秒のラグは命取り）

「apple=りんご」と言えるのは本当の単語力ではない。

The Desk Metaphor



人間の脳には「ワーキングメモリ(作業机)」がある。
「えっと…」と思い出すのに3秒かかると、机の上が「思い出す作業」だけでパンクし、ストーリーを考えるスペースがなくなる！

The Game Metaphor



オンラインゲームでボタンを押してから3秒ラグがあったら絶対に勝てない。長文で頭が真っ白になるのは、脳内で通信ラグが起きている状態。

【今日からやること】0.1秒で「映像（イメージ）」を浮かべる

DON'T



単語をノートに10回書き写す。
「improve = 向上させる」と文字で覚える。

DO



1単語MAX 3秒！高速でパラパラめくる。
「improve = （右肩上がりの矢印）」と、
0.1秒でイメージ映像を頭に浮かべる。

「英単語を見る」⇒「0.1秒でイメージ」⇒「次の単語へ」
1日100個を高速で繰り返そう。

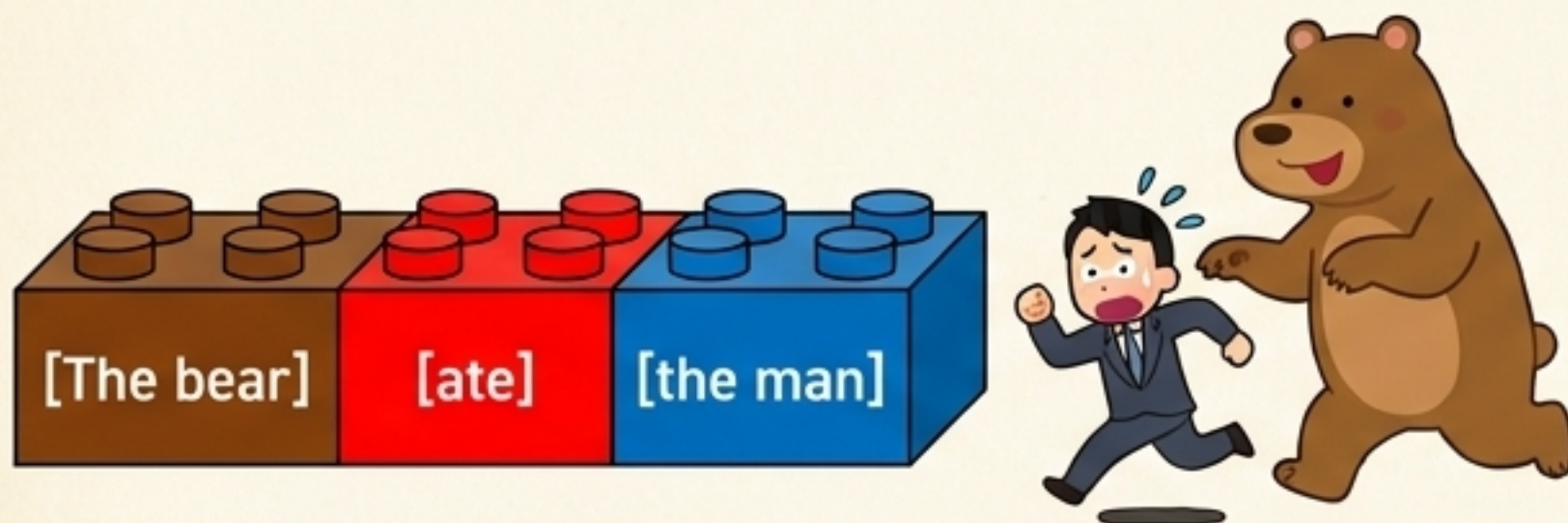
「文字じゃなくて、映像で
捉えるのがコツだよ！」



②

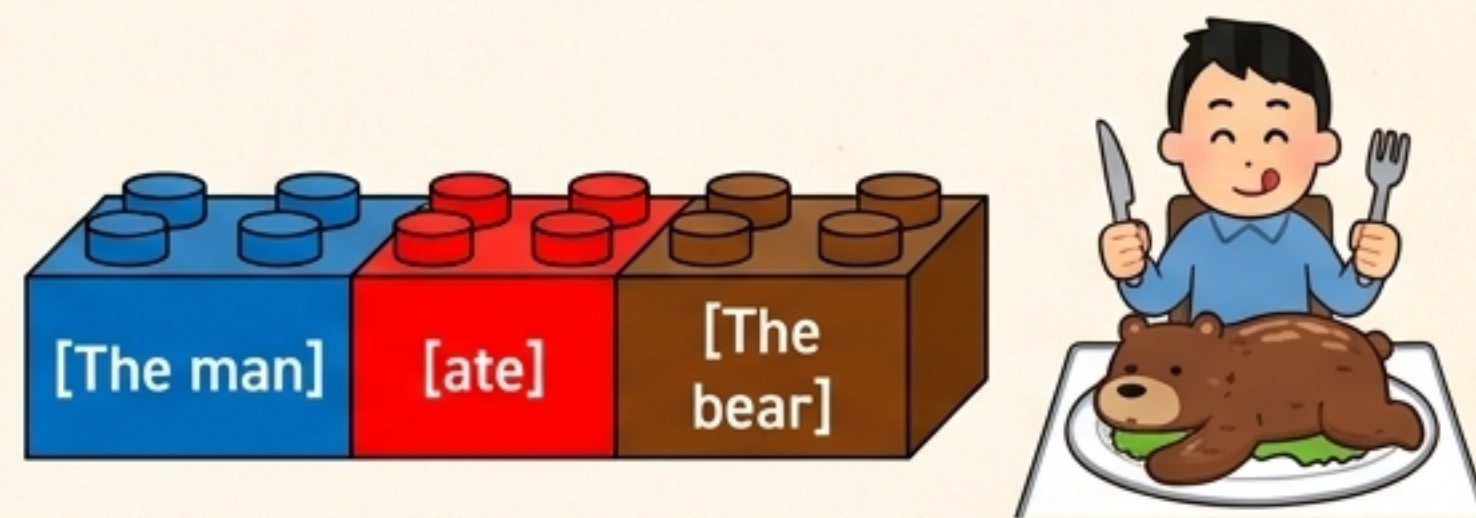
要素② 語順のルール（英語はレゴブロックである）

日本語は「て・に・を・は」のおかげで順番がバラバラでも通じる。
しかし、英語は「置かれた場所」がすべてを決める。
正しい順番ではめ込まないと形にならない。



Construction A

The bear ate the man.
(クマが、男を、食べた。)



Construction B

The man ate the bear.
(男が、クマを、食べた。)

単語の順番をひっくり返しただけで、
どちらが食べられるかという重大な意味が変わる！

【今日からやること】 勘での「推測読み」を捨てる

Diagram illustrating the process of identifying the subject and verb in a sentence for reading comprehension.

The sentence is: "An even condunce, the subject of the senti smb sorry verb thwer disporert of the harman through the principar of the if year's partner completely out of thu thoeet allenteasty."

The diagram shows two methods of identifying the subject and verb:

- Method 1 (Left):** Uses orange boxes to highlight the subject and verb. The subject is "the subject of the senti smb sorry" and the verb is "thwer". The label "主語 (主人公)" (Subject / Protagonist) is written below the subject box.
- Method 2 (Right):** Uses blue boxes to highlight the subject and verb. The subject is "the subject of the senti smb sorry" and the verb is "thwer". The label "動詞 (どうしたか)" (Verb / What happened) is written below the verb box.

1. どんなに長い文でも、知っている単語だけでパズルのように繋ぎ合わせない。
2. まずは「主人公 (主語)」を探す。
3. 次に「その主人公がどうしたか (動詞)」を探す。

英語の読解は、つねに「誰が」「どうした」のロックオンからスタートする！

「迷子になったら、主語と動詞という2つの道しるべを探そう！」



3 要素③ 構造解析力（巨大なステーキは一口サイズに切れ）

綺麗な日本語にしようとして、後ろから訳していないか？

The Physical Metaphor

NO



巨大なステーキを丸のみしようとすると
喉に詰まる（脳がパンクする）

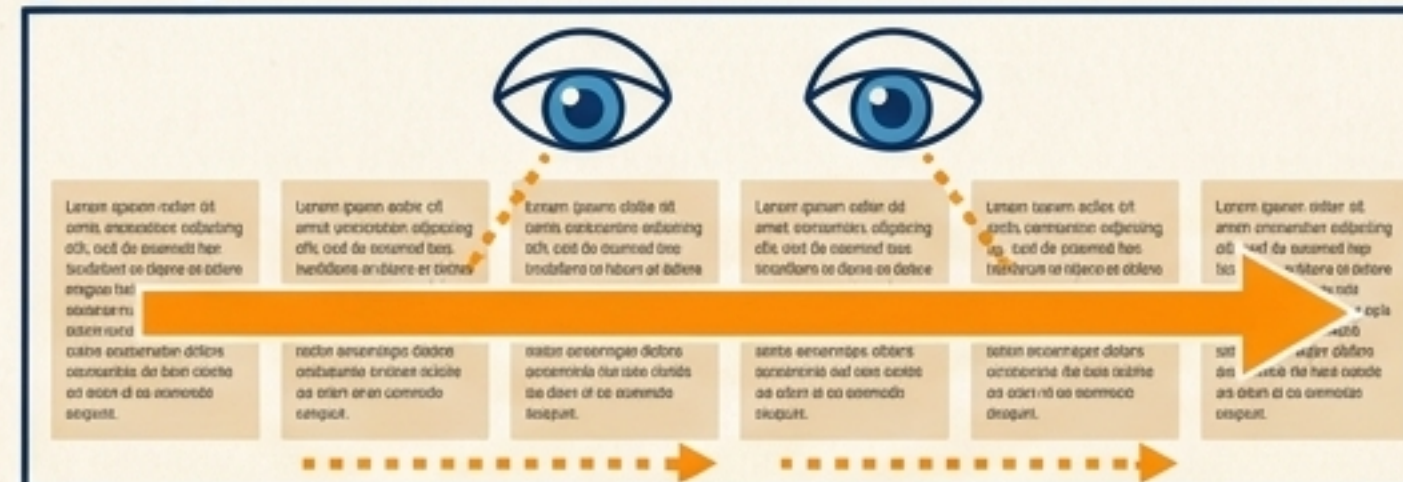


同時通訳のプロは、聞こえてきた順に
「前から」処理している。

The Eye-Tracking Diagram



後ろから訳す（返り読み）は、目が行ったり
来たりして膨大なタイムロスを生む。



英語の読解は、つねに「前から」順に、
一口ずつ処理する。

【今日からやること】スラッシュリーディングで「ぶった斬る」

人間が一度に処理できる情報のカタマリは「4つ前後」。
電話番号をハイフンで区切るように、意味のカタマリごとに前から切っていく。

The boy / who is playing soccer / in the park / is / my brother.

(その少年は サッカーをしている 公園で です 私の兄)

Rule Box (Where to cut)

- 前置詞 (in, at, forなど) の前
- 接続詞 (and, becauseなど) の前

「一口サイズに切り分けて、
前から一つずつ飲み込んでいこう！」



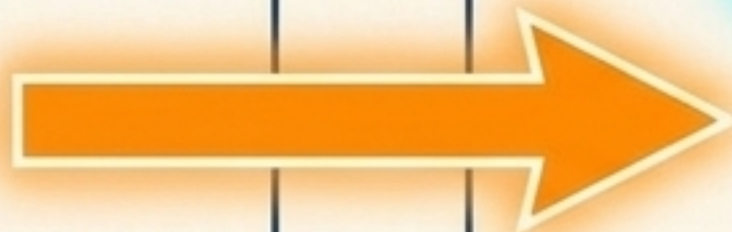
4 要素④ 処理の自動化（脳のフリック入力化）

掛け算の最後は「スピード」。最初は頭で考えて（翻訳して）読むが、長文が異常に早い人は、脳内で処理が完全に「自動化」されている。

Evolution Timechart



最初は頭で考える



処理が完全に自動化される

自転車に乗るのや、スマホのフリック入力と同じ。
体が勝手に反応する「手続き記憶」に変換することが鍵。

【今日からやること】「音読」で脳の処理を自動化する

特別な才能はいらない。「単語も構造も完璧にわかっている英文」を、声に出して読むだけ。



Target

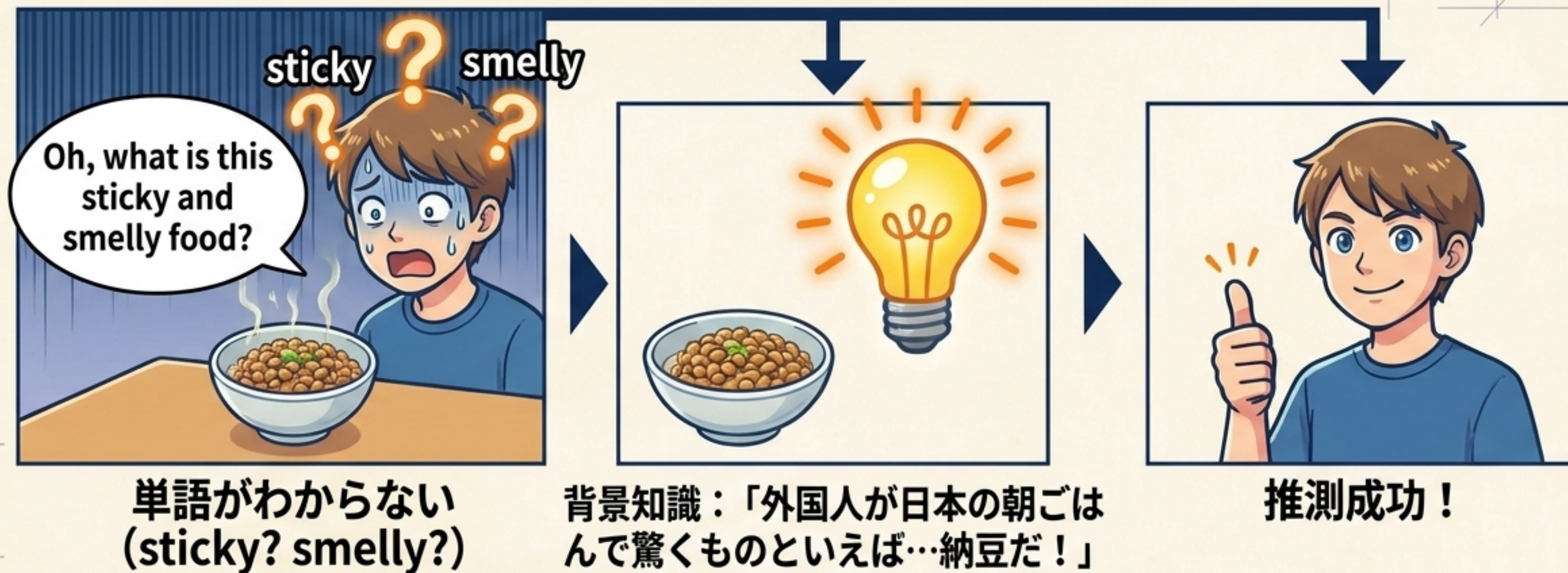
毎日1つの長文を10回、ネイティブの音声に合わせて音読する。

Outcome

処理スピードが自動化され、英語のまま情景が浮かぶようになる！

⑤ 背景知識の推測（最後の「おまけ」の足し算）

「あいつは単語を知らなくても解ける」の正体。



【注意】 掛け算 (①～④) がボロボロなのに、足し算だけで挑むのはただの当てずっぽう！ 推測力はあくまで最後の底上げ。

君の「ゼロ」はどこにある？（冷徹なデータ分析・弱点攻略マトリクス）

【症状】		【原因】		【処方箋】
知らない単語が多すぎた	→	①単語の瞬発力	→	0.1秒でイメージ化
並べ替え問題でミスをする	→	②語順のルール	→	主語と動詞のロックオン
時間が足りなくなる	→	③構造解析力	→	スラッシュリーディング
長文の途中で頭が真っ白に	→	④処理の自動化	→	1日10回の音読



「感情論で落ち込むのは終わり。
原因をピンポイントで見つけよう！」

英語はセンスじゃない。 必ずクリアできる「ロジカルなゲーム」だ。

次の模試で点数が悪くても、「才能がない」とため息をつく必要はもうありません。

$$\text{英語力} = (\textcircled{1} \times \textcircled{2} \times \textcircled{3} \times \textcircled{4}) + \textcircled{5}$$

- ・正しい科学のルールを知る。
- ・自分の「ゼロ」を見つける。
- ・正しい順番で攻略する。

「一緒にレベルアップ
していこう！」

さて、君の弱点（ゼロ）はどこにあるだろうか？
ゲーム攻略を始めよう。

